

2026年度大学教育問題全学講演会（2026.4.9）

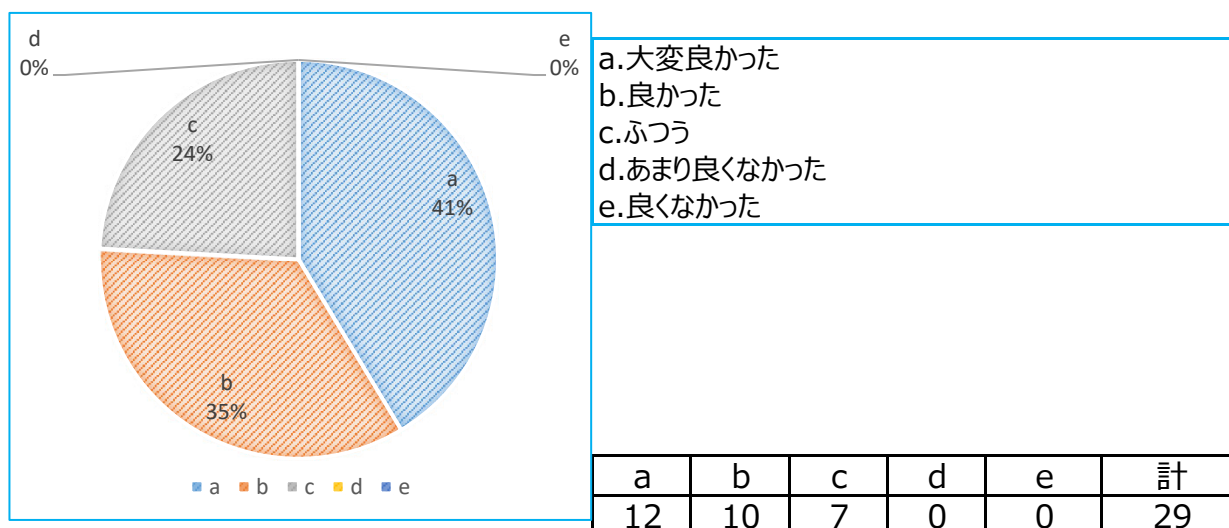
「第6次基本構想 ～次世代への深化と飛躍～」

アンケート集計結果

参加者

194名

1. 本講演はいかがでしたか



2. よろしければ、1.の理由を教えてください。

●「a.大変良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 大学全体の進むべき先を見通せました。重点項目に挙げられていた「心身の健康とウェルビーイング支援強化」を推進するためにも、スポーツ健康分野の専任教員を豊橋、名古屋それぞれに増員を希望します。
- ◇ 愛知大学が目指す未来像が明確になった。
- ◇ 大学の今後に向けた「認識」と「方向性」を共有できた。
- ◇ 直接、上層部の言葉を聞いてよかった。
- ◇ 新任教員として何に向かうかが、より明確になったから。
- ◇ 学長が考えていることがわかったから。
- ◇ 具体的なビジョンが見えてきたから。
- ◇ だいたいの方向性がわかったため。
- ◇ 学長はじめ執行部の方々の声を直接聞くことが出来たこと。
- ◇ 執行部の意図や思いをある程度共有することができた。
- ◇ 学長 始め常務理事の皆さんの思いのこもった話が聞けた。
- ◇ 学長の話だったから。

●「b.良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 大学の今後の方針を再確認できた。
- ◇ 学長の思いが伝わってきた。
- ◇ 大学の方針を、熱い想いとともに語っていただき、教員としてのモチベーションや指針を得たと感じる。
- ◇ デジタル時代において大学が対応していく姿勢が伝わる基本構想であることが明示されていたため。
- ◇ 第5と第6の内容はとくに良かったです。
- ◇ 第6次構想について知ることができたから。
- ◇ 知らないことが多かったから。

- ◇ 想いが伝わってきたため。
- ◇ 構想について、常任委員会の考えや想いを直接聞くことができたから。
- ◇ 学長の話には具体性がなかったが、続く3人の話は有益だった。

●「c.ふつう」と答えた人のコメント

- ◇ 構想なので大風呂敷を広げた感があった。具体的にどうするのか薄い。
- ◇ ご準備やが公演ありがとうございました。
一報すべての教職員に推進するためには、オンライン等で配信して頂けると、もっと多くの方が、この意味づけがわかったと思います。そのため、後日、オンライン配信を残し、出れなかった方や、今後入職してくる教職員に見て頂ける環境整備が大切かと思えます。
- ◇ 遅過ぎるが、ようやく第6次基本構想が提案されて、良かった。
- ◇ 整理はされていたが、基本的には共有済みの情報が多かったから。
- ◇ 教育職員は教授会、事務職員（管理職）は合同課長会議が本講演の開催会場で実施され、連続して出席する様に配慮がされているが、事務職員（係長クラスおよび一般課員）は所属校舎以外のは参加することが難しい状況にある。一方で本講演は例年重要な内容が公演されており、次年度以降はオンラインでのライブ配信の併用を希望する。

3. よろしければ、良かった場合や良くなかった場合の理由を教えてください。

- ◇ 新任の教職員をまとめて座らせてあげたら、良かったのかと思った次第です。
- ◇ 新年度に教職員皆でビジョンを共有できた点がよかった。
- ◇ 第5次基本構想から第6次基本構想へのつながりがよく分かった。
- ◇ 組織改革（学部人材の入れ替えを含む）が急務で、今の意思決定・行動スピードでは遅いと感じる。近隣大学・全国の大学の動向を見ていると2030年代前半では間に合わないという印象。その上で、学部で先進的な取り組みが実現できる制度を早期に構築すると同時に、それに対応する事務組織（現行の企画課・人事課とは別）の整備・予算見直しを実施してほしい。
- ◇ 率直な言葉で語られたこと。
- ◇ 名古屋からの移動があるので、移動時間に聴講ができるオンラインでの中継を考慮して欲しかった。
- ◇ スライドの文字が小さかったので、もう少し大きくしてほしい。
- ◇ 一歩深めた理由を求められた質問と理解して回答します。よかったのは、私の教育理念、社会に向かう事業理念があり、第6次計画の平仄があっていると考えられるためです。
- ◇ 夢を語っていただいた。だが、具体的にどのように達成しようとするのが、煙に巻かれたような感を抱いた。
- ◇ 具体的に何をしていくかが大事なので、それを今後明確にして欲しい。
- ◇ わかりやすく聞くことができた。
- ◇ 身近なトピックがよかった。
- ◇ まだ赴任して期間が短かった中で、大学中心部の方々の講演を聞いて、自分が愛知大学の一員である自覚を持つことができた。
- ◇ 現実を直視しつつも、建学の精神に基づいた将来の具体的構想が聞いた点が良かった。
- ◇ もう少し長い時間で詳しく聞きたかった。
- ◇ 長い
- ◇ この構想を学生にもどのように伝えるか、具体的に示していただけるとより良いかと思えます。学生も重要なアクターですし、20年後には保護者になる可能性もあるので。
- ◇ 教職員が、執行部のみなさんの考えを聴くことのできる機会はなかなかなく、とても有意義な時間だったと思います。
- ◇ もう少し少子化に対する具体的な展望があると良かった。
- ◇ 学長の考え、意思を知ることができたから。

4. 本講演を聞いて、今後の教育活動にどのように活かしていけばよろしいと思われませんか。

- ◇ より積極的に学生の成長に向けた正課とするために、授業の組み方を工夫(講義と演習とフィールドリサーチを一体的にした2単位から4単位授業)を実現できるか?それができなかった時に正課外との組み合わせ運用を工夫したい。
- ◇ 教育活動に直接係わる部分はないが、お話し通り今後も真摯に授業に取り組みたい。
- ◇ 本日の教授会の学修評価アンケートを見た時に、建学の精神などを把握していない学生が多い(それがどう学びにつながっているのかなど)と感じた。入門ゼミや、愛知大学独自の、愛大?などの授業を作り、カバーすることはできないのだろうか。すでにこうした授業があるのなら別だが…。
- ◇ 研究と教育に励むのみ。
- ◇ 授業の中で、これまでに扱ったいくつかのポイントを取り入れてみようと思います。とくにありません。
- ◇ 学修者本位の教育の可視化について考えていきたいと思いました。
- ◇ 学生のウェルビーイングに注力したいです。
- ◇ アクティブラーニングを積極的に取り入れようと思った。
- ◇ 学生主体の授業・行事の実施を継続し、在学生から高校生へ、愛大に来て良かったと伝わるよう努めたい。
- ◇ DXに関してより意欲を高めた。
- ◇ 大学が何を目指しているところに、各授業の位置付けができればと思います。
- ◇ 3.で記載した点とも関連いたしますが、現状では執行部としての目標が「あるようで明確には示されていない」印象を受けております。
- ◇ 学習者本位、地域貢献、地域連携を実践していきたい。
- ◇ 基本的なことを大切に、自分の与えられた責務をきちんと果たす。
- ◇ 参考にします。
- ◇ 具体的でないので、まだ教育活動に活かすまでいけない。
- ◇ DXということで、スマホを活用したリアルタイムな意見徴収やその提示ができると、様々な授業で活かそうだ。県下の中学校ではそれに似たことができる。
- ◇ 行動の基盤としての行動指針と自分で考えてしている行動がほぼ一致していることを確認できたので、行動としては変わらないが、しかし大学としても同じ方向をみていると胸を張って行動できそう。
- ◇ モチベーションになった。

5. 今後、どのようなテーマを希望されますか

- ◇ 重点項目に挙げた内容に関するテーマ、例えば心身の健康などのお話を聞きたいです。
- ◇ 地域社会と連携した取り組み例を知りたい。
- ◇ 大学広報(外向きの見せ方の工夫)について
- ◇ 他大学における教育改革の取り組み
- ◇ 少子化への大学の対応
- ◇ DXの推進が具体的にどのようなビジョン、方法でなされていくのか。
- ◇ 既存の学部との分断を避けた、文理融合の理念をいかに現場に落とし込み、どのような人材を輩出していかにかについての、新学部のビジョン。設置することで見込まれる相乗効果、また既存の学部への波及力/との相互作用など期待している視点など、明確なビジョン。
- ◇ 教育IRとLOsについて
- ◇ 来るさらなる学生減少に向けて、学生数を減らす、教員数を減らす以外の生き残り方法についての、具体的な、野心的な構想。
- ◇ PBLやアクティブラーニングの実践例。
- ◇ 生徒がより意欲的に学び、自分の将来の進路を主体的に見つけられるようにするには、どのように動機づければよいでしょうか。
- ◇ 今回のように、愛知大学そのものに関する話をもっと知りたい。
- ◇ 「教職員をハラメントから守る」
- ◇ 今回同様、大学の将来ビジョンとその根拠について。

- ◇ 地域とどのように関わるか（研究、学生教育いずれも）。
- ◇ 第六次基本構想が達成されている状態を全ての教職員やステークホルダーが一致できる状態とそれを推進していくための、進め方。
- ◇ 事務部長の皆さんの話（それぞれの思い）も聞いてみたい。
- ◇ 授業のケーススタディ
- ◇ より具体的な展望が出せると良いと思います。
- ◇ 教育職員と事務職員の協働に関するテーマ
- ◇ 実際に教育現場で遭遇した苦難やその対応の事例紹介
- ◇ 生成AIと倫理観